

## 第1回 野洲市大篠原地域環境保全対策委員会 会議結果

1. 開催日時 平成26年12月12日(金)14時～16時
2. 開催場所 野洲市役所 本館3階 第二委員会室
3. 出席委員 市川委員、岸本委員、山田委員、南委員、飯田委員、松下委員  
以上6名
4. オブザーバー 滋賀県南部環境事務所 松岡主幹
5. 事務局 立入環境経済部長、寺田環境経済部次長、吉川環境課長、同課駒本課長補佐、中井野洲クリーンセンター整備室長、同室南井室長補佐、西野主査、南井主査、江口主査 以上9名
6. 傍聴者 なし
7. 会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
  - (1) 新野洲クリーンセンター整備事業の取組みについて
  - (2) 地域内の環境負荷施設における取組みについて
  - (3) 周辺河川等環境モニタリング調査結果について
  - (4) 生活環境影響調査事後調査結果について
  - (5) 平成27年度大篠原地域環境モニタリング調査計画案について
4. その他
5. 閉会

### 8. 会議結果

現在進めている新野洲クリーンセンター整備事業の取組みとして、造成工事の進捗状況および建設工事の設計概要を報告し、地域内の環境負荷施設における取組みについての確認と平成26年度モニタリング調査等の計画に基づき実施した調査の結果について確認しました。

#### 議事(1) 新野洲クリーンセンター整備事業の取組みについて

造成工事における12月1日現在の進捗状況および建設工事の設計概要として主要な設備やスケジュール等の確認をしました。

##### ○主な意見等(各委員→事務局)

- ・天神川は農業用水の利用があり、先日天神川洪水調整池を案内により確認したが、底部にコンクリート張りがしていないので、地下浸透した場合に用水が確保できないことが考えられるため対策が必要ではないか。  
→天神川洪水調整池には防災用と農業用水確保の二つの役割を持っていますが、底版部分から地下浸透することが判明したことから、対策を講じるよう考えています。
- ・剪定枝のリサイクル計画はあるか。  
→リサイクルセンター内に剪定枝ストックヤードを設置し、破碎機によりチップ化する計画をしています。用途は検討中ですが、一般的には堆肥化、土壌改良材、燃料といった利用がありますが、まずは市民へ還元できる方法で検討したいと考えています。
- ・野洲市はプラスチックごみを焼却する方向で進められているようだが、どの時点で切り替えるのか。また市民への周知はどのように考えているのか。  
→新クリーンセンターの稼働開始に合わせて、プラスチックごみを焼却へ移行する予定です。市民への周知については、現時点では分別回収を実施していますので、混乱を招かないよう、時期や周知方法を検討していきます。また、プラスチックごみを焼却処理する一方で、雑紙の積極的な資源化の検討を進めていますので、決まり次第周知していきたいと考えています。
- ・造成工事により整形された法面が急勾配であり、大雨が降った場合の崩壊など問題ないか心配である。  
→法面部分の勾配については、土質状況に合わせて安定した勾配となるよう開発技術基準に基づき設計していますので大雨で法面が崩壊することはありません。

## 議事（２）地域内の環境負荷施設における取組みについて

環境負荷施設の取組みとして、野洲クリーンセンターの公害防止計画に基づく調査結果、地域に立地する産業廃棄物処理施設や大規模工場における市との環境保全協定に基づく調査結果および自主調査結果について確認しました。

### ○主な意見等（・各委員 →事務局）

- ・大篠原地域には報告のあった３つの事業所以外にも事業所があるが、環境保全協定は締結していないのか。  
→工業団地の事業所も含めて地域内全ての事業所と協定を締結しています。委員会で情報提供させていただく３事業所は集落に近接していることから対象として協力いただいています。

## 議事（３）周辺河川等環境モニタリング調査結果について

野洲クリーンセンターにおける底質ダイオキシン類対策後の確認のため、水質および底質ダイオキシン類の継続モニタリング調査を実施し、その調査結果について確認しました。

### ○主な意見等（・各委員 →事務局）

- ・ダイオキシンなどに対して敏感になっている部分があり、測定数値が基準値以下や濃度範囲内であると聞いても本当に問題ないのかとってしまう。  
→数値の部分では、人が１日に取り込めるダイオキシン量は体重１kgあたり４ピコグラムとされています。これも厳しく制限された数値で、実際は１００倍から１,０００倍摂取しないと影響が出ないであろうと言われており、仮に摂取しても１０万人に１人悪影響が出る可能性があると言われて数値ですので問題ないと考えられます。
- ・光善寺川下流部の水質に問題がないか調査してほしい。  
→環境モニタリング調査でも光善寺川の調査を実施していますし、河川の状況から下流部もほぼ同じ数値の水が流れていると考えられます。

## 議事（４）生活環境影響調査事後調査結果について

新クリーンセンター建設に係る生活環境影響調査書の工事実施時における事後調査計画に基づき、造成工事に係る予測・影響の分析結果確認のため調査を実施し、その調査結果について確認しました。

### ○主な意見等（・各委員 →事務局）

- ・濁水の問題については工事前の説明会から対策を講じるよう再三伝えてきたが、当初から山間部での工事に対する認識が甘かったのではないか。対策も指摘を受けてからの対応であり、当初から濁水を流さない意識で取り組んで欲しかった。現状には満足していないし、竣工後には濁水を流さないよう、対策を検討してほしい。  
→ご指摘のとおり、山間地における大型工事に対する十分な対応ができていなかったと認識しています。今後建設工事を進めますが、不安を与えることが少なくなるよう対策を講じていきたいと考えています。
- ・濁水対策において、沈殿槽などは有効であると考えているが、土砂を定期的に除去しないと効果が薄れるので、監視を継続し業者とも協力しながら対応すること。  
→定期的に確認し、状況に応じて土砂の除去をしています。また沈殿槽の設置できる場所があれば、設置するよう対策を考えています。

## 議事（５）平成 27 年度大篠原地域環境モニタリング調査計画案について

これまでに実施した各種調査について、今後においても継続的監視が必要であることから、基本的には平成 26 年度と同様の調査を実施し、その調査結果を委員会において報告することを確認しました。

※次回会議は、平成 27 年度周辺河川等モニタリング調査結果が明らかになる 12 月頃開催予定。

以上